

緑の相談所だより

— 第 7 1 号 —

2001. 8. 1 発行

編集：財団法人旭川市公園緑地協会旭川市緑の相談所

講習会

親子で作る「野草ガイドブック」

材料費500円(1組) 定員 30組

日時 8月11日(土) 午前9時～12時

持ち物 植物採集用のビニール袋

講師 旭川市立千代田小学校
教諭 福地 徳次さん

※長袖、長ズボンを着用ねがいます。

雨もようの場合雨具をご用意ください。

秋植え球根の植え付けと草花の鉢上げ

日時 9月9日(日) 午後1時半～3時半

講師 旭川市緑の相談所
相談員 村田 正一

参加料 無料 定員 50名

秋から冬への鉢物管理

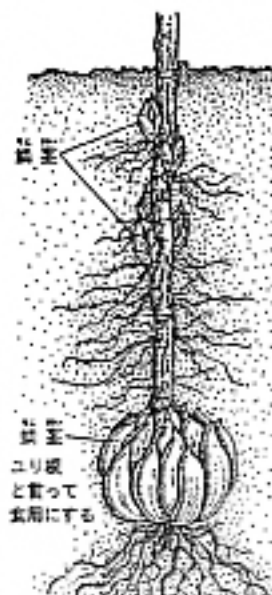
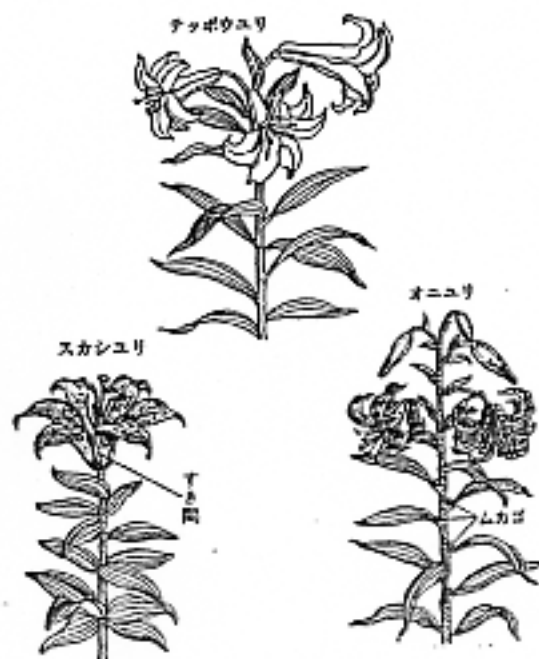
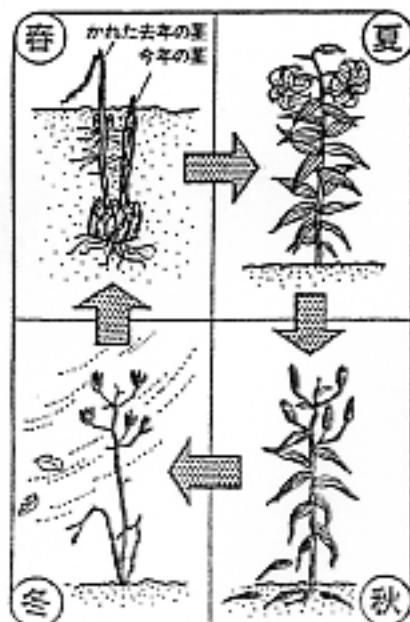
日時 9月23日(日) 午後1時半～3時半

講師 旭川市緑の相談所
相談員 佐藤 文男

参加料 無料 定員 50名

お申し込み・お問い合わせは ☎65-5553

ユリの一年



庭木類の生育と適作業

春の芽だしから始まる庭木類の生育は、夏の生育の一時休止期をはさんで、秋の終りから休眠、越冬そして春を迎えるまでいろいろな生育過程があり、その生育過程の中にいろいろな庭作業があるのですが、必ず「作業の適期」というものがあります。雪が融けて庭作業が出来るようになったら、剪定、移植、植え付け、肥料やり、農薬による防除などいつやっても良いというものではありません。

庭木類の生育に合わせたその時期、その時期の適作業を心がけることが大切です。

8月、9月のこの時期は、夏の生育の一時休止期から始まって休眠期を迎えるまでの大事な時期でもあり、この時期に行なう適作業として次のものがあります。

◎夏の剪定……夏に行なう剪定は、8月上旬～8月中旬頃の庭木類の一時休止期が適期とされています。特に剪定後の徒長のはげしいカエデ類は、秋の剪定（落葉して完全に休眠期に入ってから）より、夏のこの剪定が、過度の徒長をおさえられる良い時期とされています。ただし、夏のこの時期に行なう剪定には条件があります。その条件とは、あくまでも生育期ではなくて、夏の生育の一時休止期に剪定を行なうということです。夏の一時休止期は、その年その年によって異なります。芽の状態を良く観察し、芽がふくらんで色が変わってきた時が一時休止期の時期ですので、その時に剪定作業を行なって下さい。この時期は、わずか7日～10日くらいの間ですので十分な注意が必要です。せっかくだ行なう大事な剪定作業ですので、カエデ類の生育に悪い影響をあたえる間違った時期（生育期）での作業はしないことが大切です。もし時期がずれてしまった場合は、無理をせずに秋の休眠後の剪定を行なうようにします。

◎秋の肥料……秋の肥料は、根を元気にし、寒さに対する抵抗力をつけるための加里分の肥料です。

夏の生育期に弱ってしまったものや、8月下旬になってもどんどん生育を続けているものには特に必要な肥料です。

肥料の与え方は次の通りです。

8月下旬に1回

9月上旬に1回

生育の様子を見て、10月に入ってもまだ生育を続けているものには10月上旬にもう1回あたえるようにします。

加里分肥料としては、

有機肥料 —— 草木灰

化学肥料 —— ハイボネックス などがああります。

ただし、ツツジ、シャクナゲ類に施肥する場合は、あたえすぎると栄養障害をおこし、葉の先が黄色くなったり、古い葉の縁や、葉脈の間が黄色くなって枯れることもありますので十分な注意が必要です。

冬芽



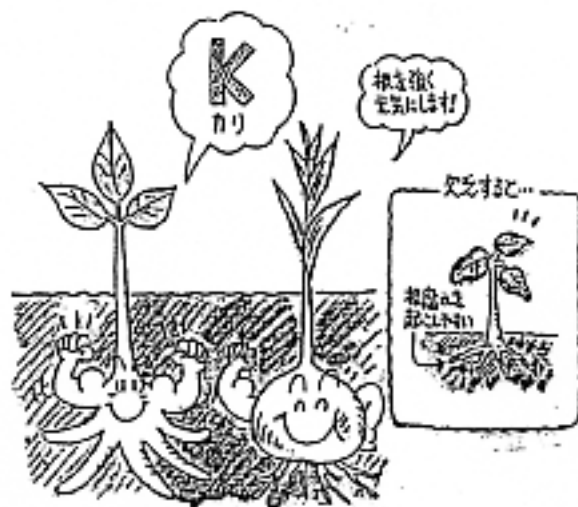
ハウチワカエデ



コハウチワカエデ

カリ

カリ (K) は根の発育を促進するため「根肥」といわれています。植物の生理作用を円滑に行う働きをして成長促進をはかっています。病気や寒さに対する抵抗力をつける作用もあります。



①強さ……根や莖を強くし、病気にかかりにくくする。

②欠乏……果実の味や外見が悪くなる。

・葉の縁から黄色したりする。

・根の生育が悪くなり、根腐れを起こしやすい。

③過剰……カルシウム、マグネシウムの吸収が悪くなる。

秋に向けての園芸作業 ~ 8月・9月

花壇の草花

- ・花の咲きがらと枯葉は丹念にとりましょう。種類によっては伸びすぎた茎を切りつめると秋になってからまた花を楽しめます。(ペチュニア、ペコニア、サルビア等)
- ・水やりは十分に。時々葉の裏にもかけてやるとハダニの駆除にもなります。肥料は少量8月中に1度化成肥料を土の表面に少量。

球根類

- ・陰干してあったチューリップ、ヒアシンス、ムスカリ、スイセン等の秋植え球根は9月末頃までに植込みを済ませます。
- ・ユリは2~3年は掘り上げ植え替え不要。掘り上げる場合は秋遅く茎葉が枯れ、球根が最大限太ってから。仔球と親球を選別し根が乾かない内に植え込みます。
- ・春植え球根(カンナ、ダリア等)は霜がきて葉が枯れるまで育て球根を太らせませ、掘り上げたら表面を1度軽く乾かし、低温でまた干からびないようにして貯蔵します。
- ・鉢植えアマリリスは霜の直前まで外で育て、秋になったら葉を切り取り、植え替え凍結しない程度の寒い所で保管します。

果樹

- ・ナシ等に多い真っすぐ上に勢い良く伸びる徒長枝は根元から切り取ります。
- ・ブドウのつるは8月中旬頃まで伸ばしてから先を摘みます。混みすぎる場合は脇芽を摘みます。今年太くよく伸びたつるは来年の充実した成り枝になります。
- ・肥料は8月に入ったら施してはいけません。収穫が遅れたり、冬の枝枯れの原因になります。収穫後落葉してから根先の部分を掘り有機質肥料を施します。
- ・スモモのふくろみ病、モモの縮葉病、灰星病。サクランボ、スモモ等のシンクイムシの相談が増えました。これらの病害虫を来年に持ち越さないため、被害果や病葉は早めに取り捨てます。秋落葉してから石灰硫黄合剤で幹や枝、地面を徹底的に消毒します。

野菜

- ・トマトは8月中旬頃、開花中の花房の先の葉3枚付けて先を摘みます。肥料は8月上旬化成肥料を根の先端あたりに1株50g1回だけ。枯葉、老葉はとります。
- ・キュウリの摘芯、老葉取りは頻りにし風通しを良くする。うどんこ病、アブラムシは早めに発見、初期防除
- ・秋ダイコンの種まきは7月下旬から8月上旬までに、
- ・ニンニク、ラッキョウの植込は8月中旬から
- ・イチゴの苗植えは8月中下旬までに

バラ

- ・秋バラのための剪定は8月上旬までに済ますと9月中下旬に見事な花が咲きます。
- ・剪定は若い元気な枝の5枚葉3~5枚残し先を切ります。先端の3枚葉の位置では早く咲きますが花は小さくなります。剪定後化成肥料を株の周囲に50g
- ・病害虫に注意、ハダニ~葉が黄変落葉(ケルセン、ニッソラン)、アブラムシ(オルトラン) ヨトウガ(ランネート) うどんこ病(ミラネシン、ダコニール)

花木の花芽分化期と花期・花芽のつき方

植 物 名	花芽分化開始期	開 花 期	花 芽 の つ き 方
アジサイ	9月下旬～10月中旬	7月上旬～8月	新梢の頂芽
アセビ	8月	5～6月(咲)	新梢の頂芽及びこれにつくわき芽の数個
ウメ	7月下旬～8月	5月中旬～下旬	新梢のわき芽
エニシダ	8月下旬～9月	5月下旬～6月下旬	同上
カイドウ	7月下旬～8月	5月下旬～6月上旬	同上
コデマリ	9月中下旬	6月上旬～下旬	新梢の短い側枝の頂端(側枝の先)
サクラ(イロハザクラ)	7月下旬～8月	5月上旬～中旬	新梢のわき芽と花束状短果枝上
サンシュユ	7月上旬～中旬	4月下旬～5月下旬	新梢の側枝の頂端
ジンチョウゲ	7月下旬～8月	5月中下旬～6月上旬	新梢の頂端(先)
ツツジ類	7月～8月	5月上旬～6月中旬	同上
ツバキ	8月下旬～9月	5月下旬～6月上旬(咲)	頂芽
ドウダンツツジ	8月	5月下旬～6月下旬	新梢の頂芽に含まれる生長点とわき芽
ニワウメ	8月	5月中下旬～6月中旬	新梢のわき芽
ハクモクレン	6月下旬～7月	5月上中旬～下旬	新梢の頂芽
ハナアカシア	7月下旬～8月	6月中下旬～7月上旬	新梢のわき芽
バイカウツギ	9月下旬～10月	6月中旬～7月上旬	新梢の先端部
ヒユウガミズキ	7月中旬～下旬	4月下旬～5月中旬	新梢のわき芽
フ ジ	7月中旬～下旬	5月下旬～6月中旬	開花後の花穂の基部1～2芽 また長梢のわき芽
ボ ケ	8月下旬～9月	5月下旬～6月上旬	2年生枝のわき芽と短果枝上
ボタン	8月	6月上旬～6月中旬	花の終わった直下の1～2芽
ムクゲ	5月下旬～6月	7月下旬～8月	新梢のわき芽
モ モ	8月下旬	5月中旬～6月上旬	同上
レンギョウ	7月	4月下旬～5月	同上
ライラック	6月下旬～7月	5月下旬～6月中旬	新梢の頂芽

※その年の天候により幅があるので注意すること